

10/1 鶴江会
217 尾田

琉球王国

比嘉道夫(72機械工学科卒)
第54回 関西蔵前懇話会
2019年9月12日

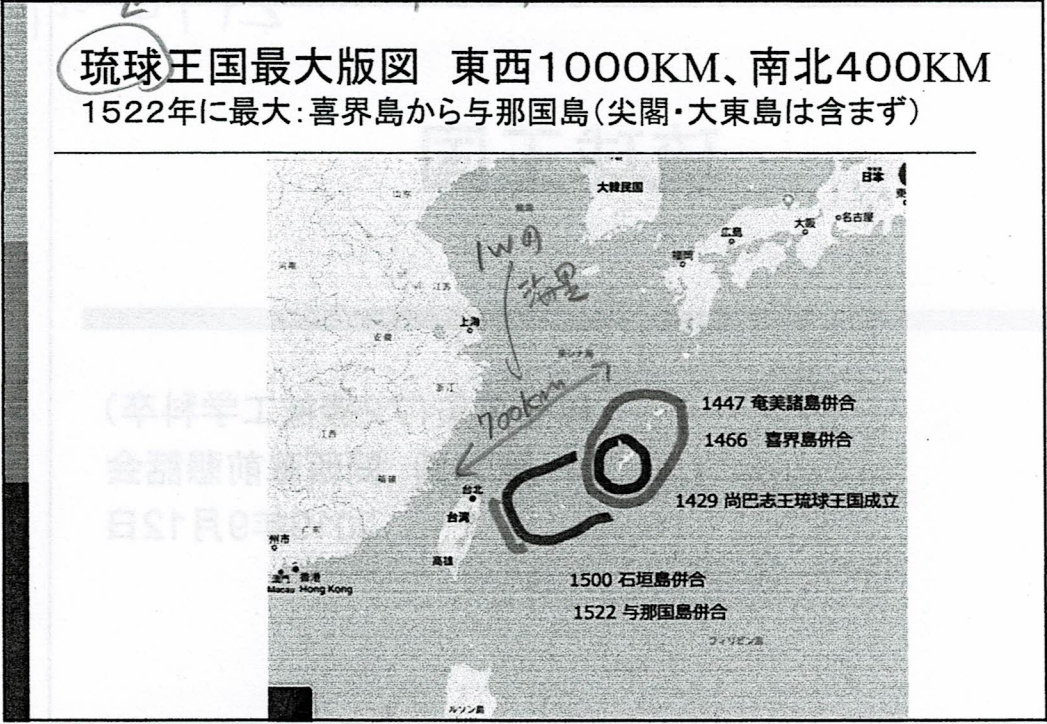
1

自己紹介

- 比嘉道夫(ひがみちお) 熊本生まれ、沖縄育ち
小学校3年から高校3年まで、沖縄県那覇市で育つ。
- ・前半: ユーザー企業の機器・施設エンジニア
 - ・20代: 全農ジュース工場の計画・装置導入・保守
 - ・30代: IBM野洲工場半導体ライン(64K・1M)
- ・後半: 部門長・経営者
 - ・42-55才: IBM野洲施設部門長・アイテス事業部長
 - ・55-66才: アイテス社長
- ・今: 69才 自由人(非常勤監査役を年数日)

2

中国(清?)の命名
東南海21Pに指す



3

琉球王国の時代 (1429-1609-1879)
三山統一から島津による傀儡支配を経て解体まで

西暦	BC															AD																						
	3万	2万	1万	5千	0	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900														
琉球 沖縄	旧石器時代		貝塚時代										グスク時代					琉球王国																				
	BC5500 鬼界カルデラ爆発															この頃原日本語から琉球方言に										三山 1429統一 1879琉球処分 1609島津侵入												
日本	旧石器時代		縄文		弥生			古墳・飛鳥			奈良			平安			鎌倉		室町		安土・桃山		江戸															
	1401義満日本国王																																					
中国	夏商		西周		春秋			後漢			三國			五胡十六國			隋			唐			五代十國			宋			南宋		元		明			清		
	636隨書に流求記載															1372海禁令1567海禁緩和																						
朝鮮	高句麗・三韓					高句麗 百濟 新羅					新羅					高麗					朝鮮王朝																	
東南アジア	1392李氏朝鮮建国 1511マラッカ占領 1571マニラ占領																																					
西洋	1492アメリカ発見																																					

4

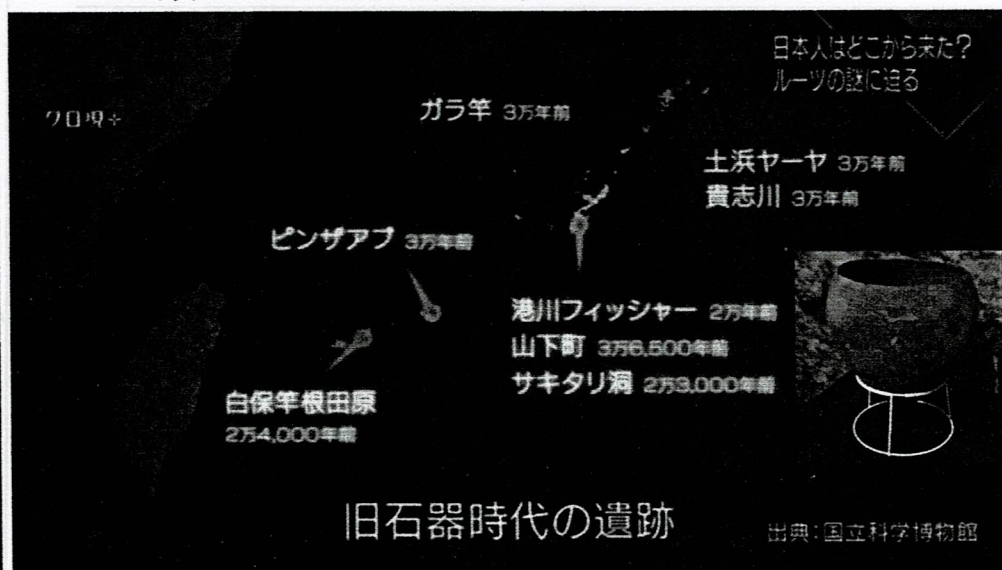
本日の内容

- 琉球王国以前
- 按司の時代から三山抗争
- 明の洪武帝(朱元璋)
- 倭寇(海寇)
- 琉球王国の誕生
- 大交易時代
- 交易のたそがれ・銀交易
- 島津侵入とその後
- 王国解体

5

琉球王国以前: 旧石器時代

人類生息の痕跡あり 縄文文化土器



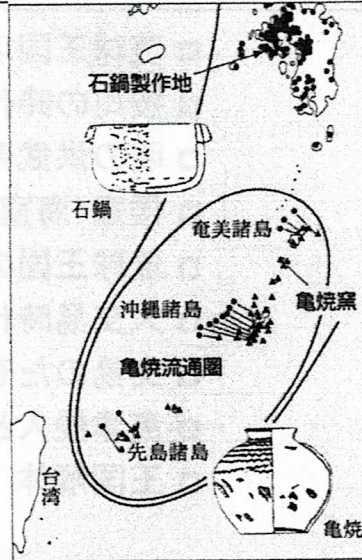
6

琉球王国以前 採集経済時代(10世紀まで)

偶発的に東シナ海沿岸地域との交流あり

- 九州産滑石製石鍋
- ゴボウラ貝製の腕輪
- 徳之島産須恵器
- 明刀銭、五銖銭、開元通宝
- 南島航路
- 随書(636年)に「流求」記載

東シナ海を内海とする商人・
海賊の存在



7

諸島間の交易は、この時代に始まっている

琉球の言葉・人種

日本と同じだが、地域化していった

- 原日本語

日本方言
琉球方言

琉球方言は中国語と似ている

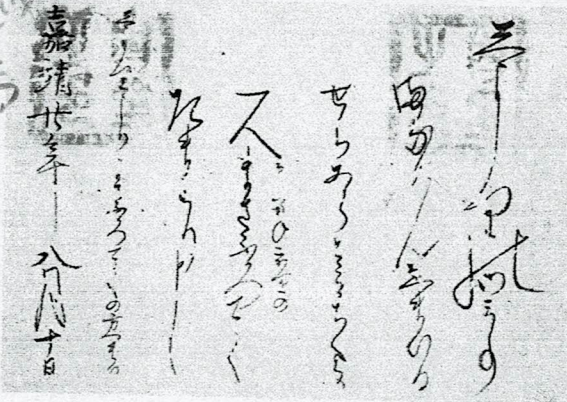
- 人種

縄文+弥生
日本と似たDNA

- 文字

漢字混じりひらがな文

▼南蛮渡航辞令書 嘉靖20(1541)年に、まなぼん(真南蛮)へ、せちあらとみ(勢治荒富=船名)ちくとの(筑登之)役として遣わされたまさふろ(真三郎)に宛てたもの。真南蛮は暹羅(現タイ)のこと。国重文田名家文書。



8

琉球の言葉は、中国語と似ている
ひらがな(2knot/210)
大分県にはいる

比嘉元から受け継ぐ

按司の時代(11~14世紀) 突然農業・貿易開始 有力者出現 沖縄本島を中心に数百の按司がグスク(城)を構築

- 主に南九州から 朝鮮・中国からも
- 民間交易 琉球が交易拠点のひとつ
- 拠点に住み着く
- 鉄器を持って農業開始 人口増加
- 有力者が生まれる 海の民が陸の民に



糸数城の城壁【玉城村教育委員会】

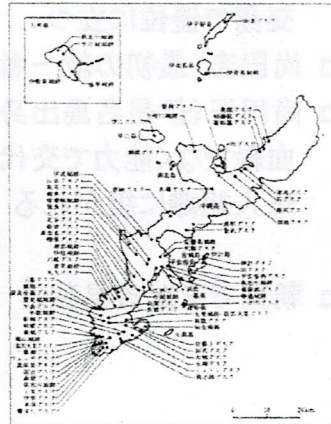


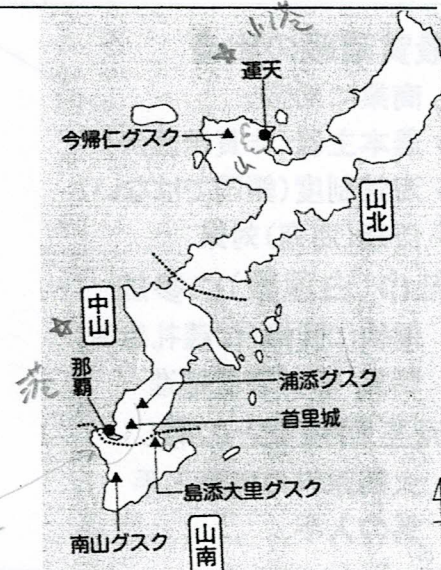
図1 沖縄県内の諸島に分布するグスクの分布図

アムシム 倭寇の時代

★この時代は川がたぎって
アムシム(アムシム)がアムシム
→ 港にたぎって
アムシム

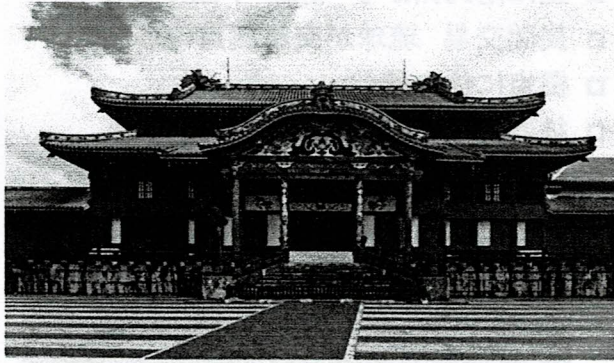
三山抗争(按司の集約) 沖縄本島の北部、中部、南部に按司連合が集約し、抗争する

- リーダーになった人
- 東シナ海交易の民
- 交易し、不調時には海賊
- 情報入手・解析が得意
- 数か国語話し、多国籍人脈
- 決断力、実行力がある
- 農業を伝え、灌漑・鉄器
- 三山の王に絶対権力はなく、
- 按司連合体のまとめ役



琉球王国成立時の状況 中山王が覇権を握る

- 1360~ → □ 察度王(最初の冊封)
那覇港を領有
交易で優位に立つ
- 1405 → □ 尚巴志(最初の統一者)
□ 尚円王(伊是名島出身)
血縁でなく能力で交代
華人組織に担がれる
- 朝貢で王が貿易独占



その時代の
王(尚巴志)
として冊封

11

明の洪武帝(朱元璋)

- 最貧階級の出身
 - 商業に反感
 - 農本主義(非貨幣経済)
 - 海禁制度(鎖国ではない)
 - 倭寇(海寇)対策
- 紅巾(白蓮教)に参加
儒教に回帰(仁義礼忠智)
朝貢・冊封制度推進
- 元王朝残党との戦い
火薬原料の硫黄入手
馬の入手



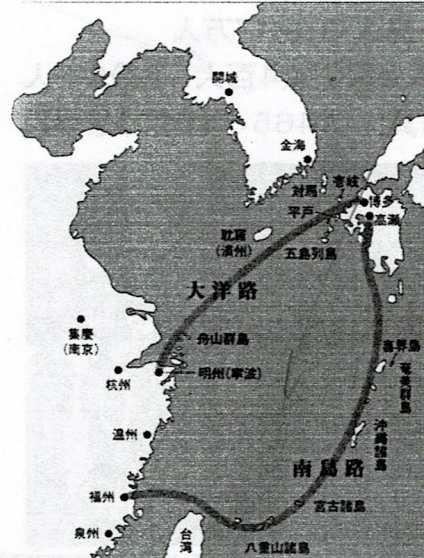
冊封制度と冊封

12

明 → 冊封

明の洪武帝は朝貢制度で琉球の活用を企む。一方、琉球の倭寇勢力、明沿岸地域の豪商もそれに乗る。

- 1368: 朱元璋 明朝樹立
- 1369: 大宰府懐良親王に入貢要請
- 1371: 懐良親王良徳で冊封
- 1373: 中山王察度に入貢要請 冊封
- 1380: 山南王冊封
- 1383: 山北王冊封
- 1402: 義満 日本国王冊封
- 1404: 勘合貿易 (~1549)
- 1406: 尚巴志 察度王朝滅亡
- 1429: 琉球統一王朝樹立



この冊封は一部中国人(+倭寇)の絡みで行

冊封(合同)に

冊封も明朝の... 冊封利用... 冊封(合同)に

国家とは？ 琉球王国の場合

尚巴志王の三山統一(1429)と明の琉球王冊封で成立

- 国際法
 - 領域 + 国民 + 政府
- 政府
 - 治安維持能力
 - 条約遵守能力
 - 立法権・課税権・外交権
- 1648年: ウェストファリア体制
 - 西洋で国家の概念成立
- 東洋では中国の華夷秩序
 - 貿易・外交のみで支配なし
 - 冊封(三跪九叩頭)



冊封の具体管理

冊封(合同)に

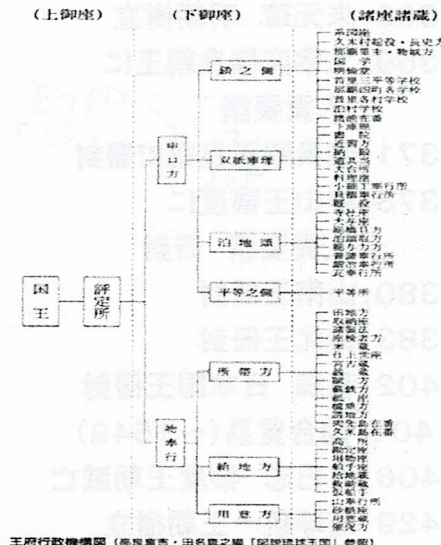
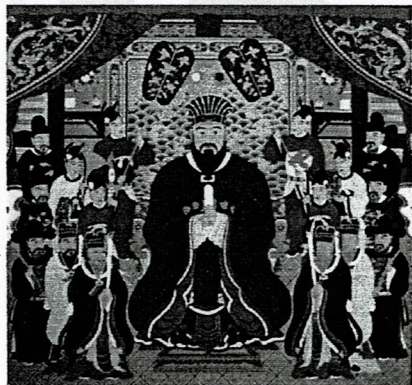
冊封(合同)に

王族の対し、重利制は官吏採用

琉球王国の組織

王族・士族からなり華人・邦人も活用

- 総人口: 約17万人
- 上級士族4百人、下級8千人
- 尚真王(1465-1527)最盛期



王府行政機関図 (尚真皇帝、田色御之圖「説琉球王」参照)

王族の対し、重利制は官吏採用 (王族の対し、重利制は官吏採用)

有制3人が、ぬり2人

琉球王国の体制

同一組織で行政・軍事・交易を輪番で実施

- 中央集権を確立
- 地方の按司を首里に集め
- 位階制度で処遇
 - 按司を官僚制に取り込む
 - 華人・邦人も組み込む
 - 文官が武官を兼務
- 地方には按司掟を派遣
- 間切・シマ制度 徴税
 - 土地は王の物 給付
- 宗教も国家管理
- 那覇は国際都市に

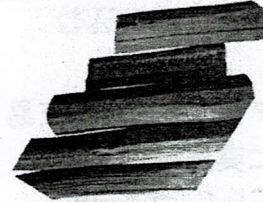
称号	品位	位階	管	冠
王子		王子		赤地金入五色浮織冠
按司	無品	按司		赤地五色浮織冠
親方	正一品	紫地浮織三司官	全管	黄地五色浮織冠
	従一品	三司官		青地五色浮織冠
	正二品	三司官座敷		紫地五色浮織冠
	従二品	紫官		紫地浮織冠
親雲上	正三品	申口	花金糸銀管	紫冠
	従三品	申口座		
	正四品	吟味役		
	従四品	那覇里主		
里之子親雲上	正五品	座敷	七族は銀管	黄冠
	従五品	下庫理当		
	正六品	当座敷		
	従六品	下庫理勢頭		
筑登之親雲上	正七品	勢頭座敷	平民は真鍮管	赤冠
	従七品	里之子親雲上		
	正八品	筑登之親雲上		
	従八品	下庫理里之子		
里之子	正九品	下庫理筑登之	平民は真鍮管	赤冠
	従九品	筑登之座敷		
筑登之	品外			
子	無位			
仁屋	無位		真鍮管	赤冠・青帽

王府位階表 (『沖縄大百科事典』首里王府位階表参照)

国家政事の1つか (海上) 交易

交易とは？

- 違う地域でお互いの必要なものを交換する
掠奪—互酬—貢納—交易(市場)
- 交易をすると競争相手に対し優位に立てる
希少なものの入手可能
14世紀から16世紀では離れた地域の情報を得ている者が優位に立つ。
- 商業は農業に対し大幅な利益
独占すれば権力が握れる



49 蘇木(スオウ) マメ科の小高木、インド、マレー半島原産。心材は赤色の染料として古来有名。また漢方では止血剤、収斂剤として用いられる

17

大交易時代 14—16世紀

- 琉球: 特産物なし
中継交易で財をなす
- 朝貢貿易
リターンが非常に大きい
私貿易も付随 大きい
- 東南アジアの胡椒、蘇木
- 中国の絹織物、生糸、銅銭
陶磁器
- 日本の刀剣・漆器・扇

前期倭寇で南島路活況

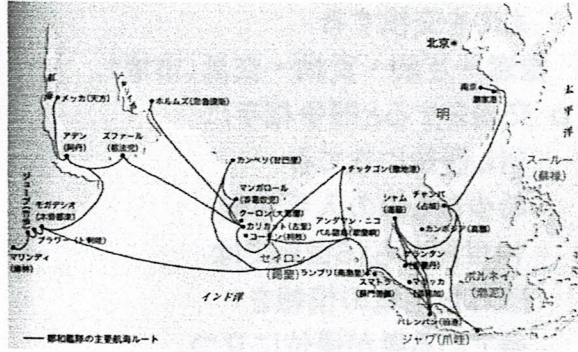


18

14の海と陸路(=交易)の
ネットワークが形成されてきた

鄭和の遠征 1405より7回

- 3代目 永楽帝指示
 - 最盛時200隻の軍団
 - 船の大きさ7-8千トン
 - 長さ150M 巾60M
- 東南アジア諸国
 - 朝貢体制に組み込む
- 琉球
 - 東南アジア諸国との交易
 - 円滑に実施可能
 - 特にシャム・マラッカ



19

大交易時代 明から大型船の下賜

- 当時の明は世界最先端の造船技術
- 明から琉球に1404から30隻の大型船を下賜
 - 船長・乗組員も供与
 - 交易文書作成者も供与
- 明皇帝が交易独占
- 密貿易もあった
- 倭寇(海寇)も取り締まりの中で存在

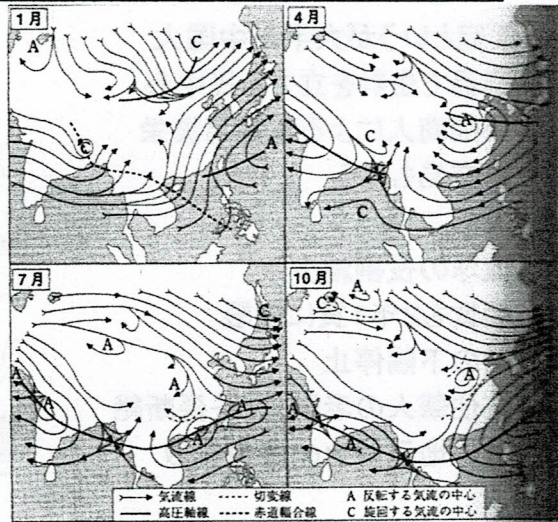


20

下船を待つ船(1ヶ月/4)

大交易時代 交易の頻度

- 帆船なので風任せ
1方向 年に1回程度
- 明は琉球に対し
初期は朝貢無制限
実際は年3貢程度
その後は年1貢
安南は3年1貢
日本は10年1貢
勘合貿易

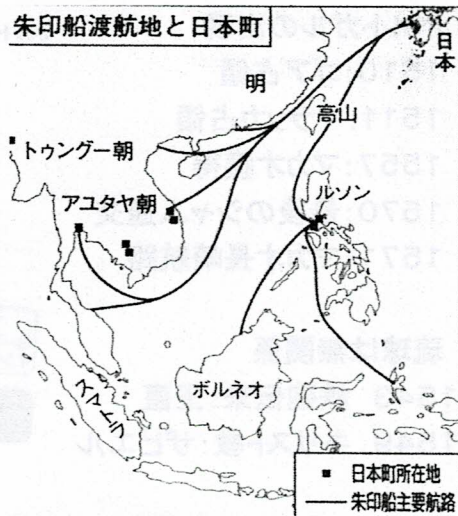


10 東ユーラシアにおける季節風の向き 沿海、黄海、東シナ海、南シナ海では、季節による風力も大きく変化する(『中国自然地理図集』中国地区出版社より)

21

交易のたそがれ 明の方針変更

- 里甲制の破綻
16世紀中から一条鞭法
1580 明全国に適用
銀通貨需要増大
- 1567:海禁制度実質廃止
華人による私貿易盛ん
倭寇(海寇)の終息
琉球優遇の理由なくなる
- 日本商人の活躍
朱印船貿易



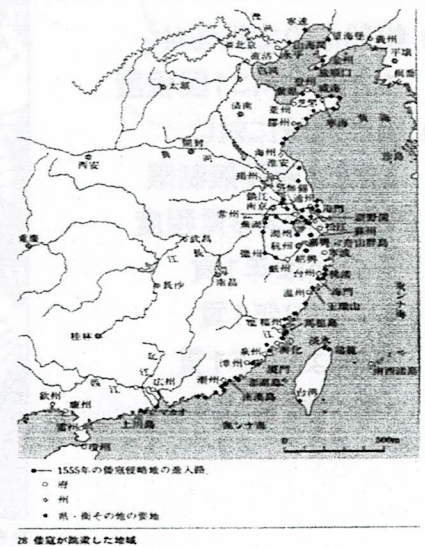
22

るにのうた

後期倭寇(海寇) 16世紀

- 倭寇というが大半が中国人
交易で生計を立てる民中心
民間商人による私貿易繁栄
銀交易も担う

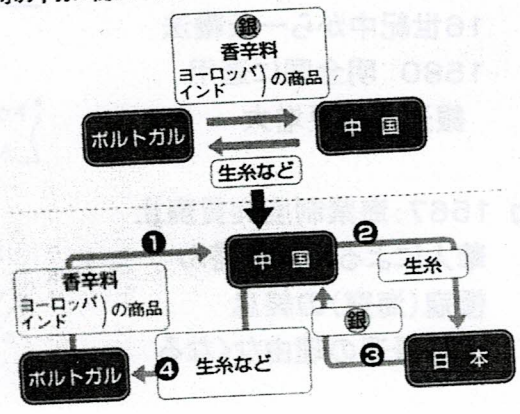
- 琉球の役割減少
朝貢も2年1貢に制限
船の下賜停止
在住華人の老齢化・子孫断絶
琉球地元勢力の権力奪取



交易のたそがれ 西洋人登場

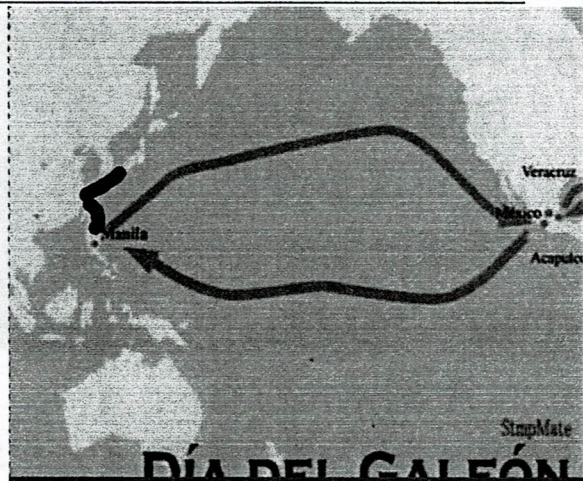
- ポルトガルの出現
- 1510:ゴア占領
- 1511:マラッカ占領
- 1557:マカオ獲得
- 1570:最後のシャム通交
- 1571:マカオ長崎航路
- 琉球は無関係
- 1543 鉄砲伝来:王直
- 1549 キリスト教:ザビエル

ポルトガル商人の貿易活動



交易のたそがれ 銀貿易

- 石見の銀山
 - 16世紀初産出世界一
 - 灰吹き法
 - 密貿易で明へ
- 南米・中米の銀産出
 - 16世紀中から世界一
 - 水銀法
 - ガレオン船航路開拓
 - スペインが1571に
 - マニラ拠点 国際都市
 - 明から陶磁器・絹織物



25

沖は2170の交易貿易産物が主眼なため、

島津侵入(1609)とその後 幕府公認の薩摩藩に支配され、一方、明・清から冊封・朝貢体制を継続

- 島津侵入の目的
 - 島津:領土拡大
 - 幕府:日明国交・貿易回復
- 侵入後の体制
 - 幕藩体制下、薩摩藩の一部
 - 薩摩藩の間接支配
 - 国家機構存続
 - 中国との冊封体制維持
- 琉球:失策があった
 - 日本が統一体制の認識弱
 - 島津以外へのアプローチなし



26

王国の解体 140年前のこと

薩摩藩支配時代に徴税権があったことが根拠

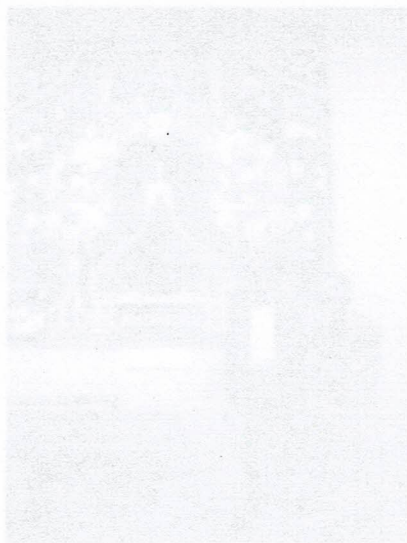
- 1869: 版籍奉還
琉球は適用なし
- 1871: 廃藩置県
琉球は適用なし
- 1879: 琉球処分
沖縄県になる



最終的に日清戦争の帰結により、領土として確定した

27

薩摩藩の版籍奉還と琉球の版籍奉還
薩摩藩の版籍奉還と琉球の版籍奉還



- 内務省の版籍奉還
- 大坂土庫: 版籍
- 福岡県: 文庫印日: 版籍
- 薩摩藩の版籍奉還
- 薩摩藩の版籍奉還
- 薩摩藩の版籍奉還
- 薩摩藩の版籍奉還
- 薩摩藩の版籍奉還
- 薩摩藩の版籍奉還
- 薩摩藩の版籍奉還

28